

## 校内別室指導支援員の活用について

### 不登校児童の状況

対象児童は、登校はできるが教室への入りづらさを訴えている。登校後クールダウンの場として校内別室を活用し、教室へのスムーズな接続を目指すため、校内別室指導支援員が登校の見守りと、校内別室の付き添いを実施している。

### 具体的な取組

#### ○登校時の見守りと教職員間の連携

校内別室指導支援員が昇降口付近で登校する当該児童への声かけと見守りを行った。当該児童が、登校を渋ってなかなか教室へ行けずにいたときには、安心できるよう声をかけ、教室まで付き添ったり、担任や養護教諭への連絡を行ったりした。

#### ○校内別室で一緒に課題に取り組む

担任が校内別室の利用が必要と判断した際に、校内別室指導支援員が校内別室で過ごす当該児童の見守りを行った。担任や専科教員から提示された課題の取組を見守るほか、児童と一緒に絵を描いたり、工作したりすることもあった。



#### ○教室への入室をスムーズに

校内別室でゆっくり過ごした後、他の児童と一緒に教室で学習に取り組みそうな場合は、校内別室指導支援員が当該児童に教室まで付き添い、教室にスムーズに入室できるよう支援した。

#### ○校内別室支援活用のマニュアル作成

校内で、校内別室指導支援員や校内別室を有意義に活用するため、登校時の支援と校内別室利用時の支援についてマニュアルを作成した。支援員の役割を明確化し、当該児童への適切な支援につなげられるようにした。

### 成果

対象児童の登校時に校内別室指導支援員が対応することで、細やかな対応や支援ができるようになった。校内別室指導支援員と担任や養護教諭が連携を図ることで、教室での学習に取り組むことができた。

### 課題

対象児童の支援の充実のため、支援員と担任や養護教諭の連携を図っていく。支援員をサポートする担当教員を明確に位置付けていく。